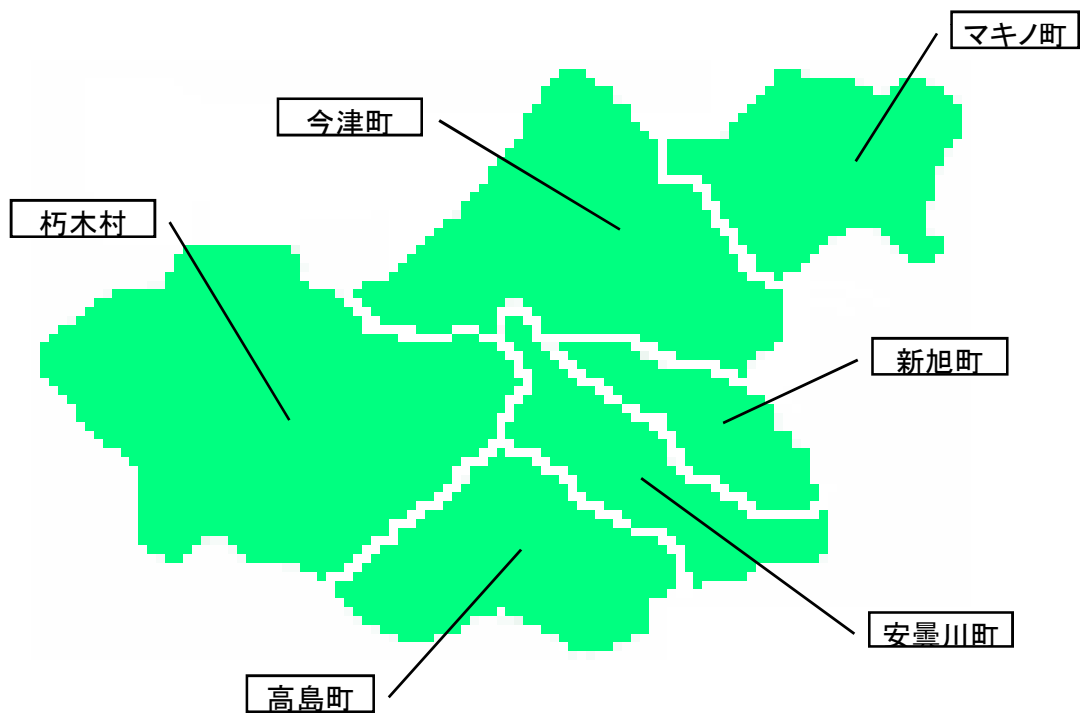


高島市の地位(滋賀県内比較)

	単位	滋賀県	高島市	滋賀県内 順位	調査年	資料出所
面積	km ²	3,766.90	693.00	1	H19.10.1	国土地理院
人口	人	1,380,361	53,950	11	H17.10.1	国勢調査
人口増加率(対前年)	%	2.8	△ 2.7	27	H17.10.1	国勢調査
人口密度	人/km ²	363.8	105.5	28	H17.10.1	国勢調査
世帯数	世帯	479,217	17,302	11	H17.10.1	国勢調査
出生児数	人	13,448	368	12	H18	人口動態調査
死亡者数	人	10,507	568	7	H18	人口動態調査
婚姻件数	件	7,705	204	12	H18	人口動態調査
離婚件数	件	2,459	81	11	H18	人口動態調査
就業人口(15歳以上)	人	680,478	26,634	10	H17.10.1	国勢調査
農業	人	24,133	1,924	3	H17.10.1	国勢調査
林業	人	366	59	2	H17.10.1	国勢調査
漁業	人	646	67	3	H17.10.1	国勢調査
鉱業	人	196	25	4	H17.10.1	国勢調査
建設業	人	50,194	2,708	6	H17.10.1	国勢調査
製造業	人	183,932	6,164	12	H17.10.1	国勢調査
電気・ガス・熱供給・水道業	人	2,917	155	5	H17.10.1	国勢調査
情報通信業	人	8,249	183	13	H17.10.1	国勢調査
運輸業	人	29,911	846	10	H17.10.1	国勢調査
卸売・小売業	人	107,326	3,873	10	H17.10.1	国勢調査
金融・保険業	人	14,174	447	11	H17.10.1	国勢調査
不動産業	人	5,808	129	13	H17.10.1	国勢調査
飲食店、宿泊業	人	29,441	1,069	10	H17.10.1	国勢調査
医療、福祉	人	56,555	2,516	9	H17.10.1	国勢調査
教育、学習支援業	人	32,162	1,105	10	H17.10.1	国勢調査
複合サービス事業	人	7,928	647	3	H17.10.1	国勢調査
サービス業	人	93,877	2,678	12	H17.10.1	国勢調査
公務	人	23,038	1,926	2	H17.10.1	国勢調査
事業所数	事業所	58,197	3,120	6	H18	事業所・企業統計調査
従業者数	人	608,478	49,897	12	H18	事業所・企業統計調査
農家数	戸	43,427	3,333	2	2005年	農林業センサス
自給的農家数	戸	11,884	850	4	2005年	農林業センサス
販売農家数	戸	31,543	2,483	2	2005年	農林業センサス
経営耕地面積	a	4,525,862	414,616	1	2005年	農林業センサス
田	a	4,318,842	388,573	1	2005年	農林業センサス
畑	a	145,265	18,191	1	2005年	農林業センサス
樹園地	a	61,775	7,852	2	2005年	農林業センサス
米作付面積	ha	35,300	3,470	2	H17	滋賀農林水産統計年報
米収穫量	t	188,900	18,000	2	H17	滋賀農林水産統計年報
農業産出額及び生産農業所得	千万円	675	581	3	H17	滋賀農林水産統計年報
乳用牛	頭	4,980	660	4	H17	滋賀農林水産統計年報
肉用牛	頭	17,500	2,690	4	H17	滋賀農林水産統計年報
林野面積	ha	202,112	36,965	1	H18	滋賀県森林・林業統計要覧
製造業事業所数	事業所	3,248	218	6	H18	工業統計調査
製造業従業者数	人	154,947	4,797	12	H18	工業統計調査
製造品出荷額等	万円	683,995,217	11,083,550	18	H18	工業統計調査
商業事業所数	事業所	15,941	776	6	H16	商業統計調査
商業従業者数	人	105,934	4,210	10	H16	商業統計調査
年間商品販売額	万円	251,691,885	6,907,001	11	H16	商業統計調査

※いずれも調査実施年の順位である

市域の変遷（沿革）



高 島 市 年 表

西 暦	和 暦	事 項
	縄文時代早期	石器や土器、落とし穴を使って狩猟が行われる(鴨遺跡・日置前遺跡)
	縄文時代中期	石鎌、石斧などが使用される(弘川B遺跡・大供遺跡)
	縄文時代後・晩	長期間の定住生活を営むムラが成立する(北仰西海道遺跡・弘部野遺跡)
	縄文時代晩期後	高島市域に水稲栽培が伝わる(針江遺跡)
	弥生時代中期	玉造りや石製品作りが行われ墳丘墓が造られる(北仰西海道遺跡・弘川B遺跡)
		高地性集落が出現する(熊野本遺跡)
		渡来人との交流がうかがえる(南市東遺跡、鴨稻荷山古墳)
	古墳時代中期	小型の前方後円墳や大型円墳を中心とする古墳群が築かれる(田中王塚古墳・妙山古墳群・平ヶ崎王塚古墳群・熊野本古墳群・下平古墳)
	古墳時代後期	小型円墳が造られる(弘川友定遺跡)
5C末		継体天皇が高島郡三尾付近で誕生したという
6C前半		鴨稻荷山古墳が築造される
570	欽明天皇31年	「越の国」について高句麗使節が、「近江の北山」から船で琵琶湖を南下して山背の相楽館へ赴く
672	天武 1年	壬申の乱、大海人皇子軍が高島郡の三尾城(高島町三尾崎付近)を攻め、陥落させる
7C~9		日置前に官衙的機能をもつ建物が建てられる(日置前遺跡)
759	天平宝字3年	高島山から奈良東大寺の用材を伐り出す
764	天平宝字8年	恵美押勝(藤原仲麻呂)の乱、仲麻呂は勝野鬼江(乙女池)での戦いに敗れ、石村村主石楯に捕えられ斬首となる
766	天平神護2年	恵美押勝の乱で功績のあった藁園寺の檀越に物を賜う
833	天長 10年	高島郡が大嘗祭の悠紀国に選定される
9C後期		このころ、鴨に官衙が造られる(鴨遺跡)
985	永観 3年	高島郡が大嘗祭の悠紀国に選定される
1001	長保 3年	音羽が太田庄として白川喜多院寂楽寺の荘園となる
1068	治暦 4年	子田上庄と川上庄を平等院領とする太政官牒がだされる
1138	保延 4年	木津庄が山門領となる
1169	仁安 4年	延暦寺横川中堂再建に高島の木材が運ばれる
1184	元暦 1年	悠紀の殿舎などの用材を採る地に高島郡の2カ所が選定される
1203	建仁 3年	佐々木信綱が朽木庄を賜う
1471	文明 3年	蓮如が湖西を通り、福井県吉崎へ向かう
1505	永正 2年	高島玄蕃允が長法寺山に城を築く
1507	4年	京を脱した將軍足利善澄が朽木谷に逃れる
1528	享祿 1年	將軍足利義晴が朽木谷に滞在する
1538	天文 7年	高島河上七頭の衆と饗庭氏が海津の田屋城を攻める
1543	12年	朽木晴綱と田中頼綱が山木の伐採を巡って争いをおこす
1551	20年	將軍足利義晴が朽木谷に滞在する
1570	元龜 1年	織田信長が朝倉攻めのため九里半街道を通過して越前にむかう、途中中田の城に泊る
1571	2年	磯野員昌が新庄城主となる織田信長から高島郡を与えられる
1572	3年	織田信澄が高島郡北部の寺院等を焼き討ちする
1573	天正 1年	織田信長が大船で高島郡を攻撃する
1578	6年	織田信澄が大溝城を築き城主となる
1603	慶長 8年	豊臣秀頼が白鬚神社の社殿、末社を修造・整備する
1608	13年	中江藤樹が上小川で誕生する
1619	元和 5年	分部光信が大溝に入封し、大溝藩が成立する
1648	慶安 1年	中江藤樹、上小川に藤樹書院を開設する
1662	寛文 2年	大地震が起こり高島郡一帯に甚大な被害がでる
1807	文化 4年	高島郡が大洪水に襲われ、大溝山王谷・愛宕山間で山崩れがおこる
1829	文政 12年	大溝藩にお預けになっていた近藤重蔵が病没する
1831	天保 2年	野田村の敦賀藩代官所に高島郡敦賀藩領の農民が乱入する 藤本太郎兵衛らが瀬田川浚渫工事を完成させる
1859	安政 6年	高島郡内でコレラが流行する
1864	元治 1年	一橋慶喜、天狗党追討のため敦賀へ向かう途中今津・海津に宿泊する
1868	明治 1年	高島郡の神官が廃仏毀釈を行う
1869	2年	蒸気船一番丸が海津一大津間の運航を開始する
1871	4年	廃藩置県、市内の所属県は大津・膳所・大溝・豊橋・小浜・福知山・郡山・金沢・伯太・川越県となる 近江国内は大津県と長浜県に2分され、高島郡は長浜県に所属する
1873	6年	市内各地に小学校が設立される
1876	9年	敦賀郡・三方郡・遠敷郡・大飯郡が滋賀県に編入される
1879	12年	今津に高島郡役所がおかれる
1886	19年	饗庭野が陸軍演習地として買収される 最初の安曇川橋(木造)が建設される
1889	22年	町村制施行により海津・剣熊・西庄・百瀬・川上・今津・三谷・新儀・饗庭・広瀬・安曇・青柳・本庄・高島・大溝・水尾・朽木各村が誕生する

西 曆	和 曆	事 項
1898	明治 31年	高島郡農会が発足する
1902	35年	鴨稻荷山古墳が発見される
1902	35年	大溝村が町制施行
1906	39年	今津村が町制施行
1917	大正 6年	第三高等学校水上部の小口太郎が、今津の宿で琵琶湖周航の歌を披露する
1918	7年	高島郡連合青年団が発足する
1920	9年	滋賀県立今津中学校が開校する
1925	14年	萩の浜水泳場が開かれる
1927	昭和 2年	高島郡誌発行
1931	6年	江若鉄道浜大津－近江今津間全通
1933	8年	安曇川大橋竣工
1936	11年	大溝町立実科高等女学校が滋賀県立藤樹実科高等女学校となる
1940	15年	安曇村が町制施行
1941	16年	第四高等学校ボート部員11名が萩の浜沖で遭難する
1942	17年	今津に県地方事務所が設置される
1943	18年	大溝町・高島村・水尾村が合併して高島町となる
1944	19年	市内小学校が大阪市の学童集団疎開を受け入れ
1947	22年	県立今津中学校が高島高等学校に改称
1951	26年	天皇陛下高島市へ巡幸
1954	29年	安曇町・広瀬村・青柳村・本庄村が合併して安曇川町となる。
1955	30年	海津村・剣熊村・西庄村・百瀬村が合併してマキノ町、川上村・今津町・三谷村が合併して今津町、新儀村・饗庭村が合併して新旭町が誕生する
1956	31年	志賀町大字鶴川が高島町に編入する
1959	34年	饗庭野で第2回日本ジャンボリーが開催される
1962	37年	箱館山スキー場営業開始
1965	40年	国境スキー場営業開始
1966	41年	県立高島高等学校安曇川分校開校
1967	42年	国鉄湖西線工事が着手される
1969	44年	江若鉄道廃線、最後のお別れ列車が走る、江若バス始発式
1974	49年	国鉄湖西線開通、各駅で開通祝賀行事が行われる
1981	56年	びわこ国体、今津町では剣道競技会・銃剣道競技会、安曇川町でウェイトリフティング、高島町・朽木村では山岳競技が行われる
1987	62年	ガリバー村が開村する
1988	63年	グリーンパーク「思い出の森」オープン 近江聖人中江藤樹記念館開館
1991	平成 3年	第1回西びわこペーロン大会が開催される マキノサニービーチオープン
1992	4年	高島郡森林組合が発足
1994	6年	湖西初の都市型ホテル「今津サンブリッジホテル」がオープンする
1995	7年	「家族旅行村ピラデスト今津」がオープンする ピラデスト今津で第19回全国育樹祭式典が行われる くつき温泉「てんくう」がオープンする
1996	8年	びれっじー号館がオープンする
2001	13年	打下古墳石棺から5世紀中ごろの人骨が出土する
2002	14年	高島郡6町村合併検討協議会の初会合が開かれる 高島郡5町による法定の高島地域合併協議会が発足する
2003	15年	新旭で地雷をなくそう全国子どもサミットが開催される
2004	16年	マキノ町・今津町・朽木村・安曇川町・高島町・新旭町による合併調印式が行われる
2005	17年	1月 マキノ町・今津町・朽木村・安曇川町・高島町・新旭町5町1村が合併し、高島市が誕生する 5月 市内全域でチャレンジデーが開催される 9月 吹田市とフレンドシップ交流・災害応援協定が締結される 10月 大家友和ベースボールクラブ高島クラブチームが設立 10月 ガリバーホールで第12回全国山城サミットが開催される 11月 高島市が景観法に基づく景観行政団体となる
2006	18年	1月 朽木村井で土砂崩れ発生 2月 高島市全域が滋賀県経済振興特別区域「びわ湖・里山観光振興特別区域」の認定をうける 4月 守口市と友好交流・災害応援協定が締結される 6月 日本再発見塾I N高島が開催される 10月 北陸本線・湖西線直流化開業
2007	19年	2月 若狭町と災害時の相互協力に関する協定が締結される【1】 3月 高島市総合計画を策定 5月 滋賀大学と地域連携にかかる協定が締結される【2】 6月 インターネットテレビ「高島みてねっ！」開設【3】 7月 藤樹書院跡に「中江藤樹墓所」が追加指定される【4】 9月 メール配信サービス「リアルタイム高島」開始

西 暦	和 暦	事 項
2007	19年	9月 継体天皇即位1500年記念事業『高島歴史フォーラム「継体天皇と古代高島」』が開催される【5、6】
		10月 藤樹先生生誕400年祭マスコットキャラクター「よえもん君」が完成【7】
		10月 全国トレイルサミットin高島2007が開催される【8】
		11月 高島市地域SNS「高島きてねっと!」開設【9】
		11月 高島市が地方自治法施行60周年記念総務大臣表彰を受賞【10】
		12月 成安造形大学と地域連携にかかる協定が締結される【11】



(若狭町との調印)



(滋賀大学との調印)



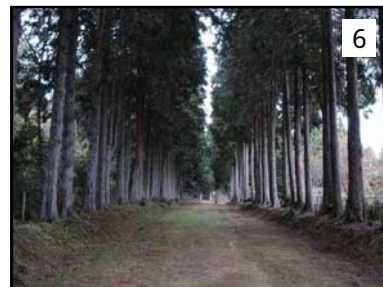
(みてねっとニュース撮影中)



(中江藤樹墓所)



(えな塚)



(田中王塚)



(語る「よえもん君」)



(全国トレイルサミットin高島)



(きてねっとページ)

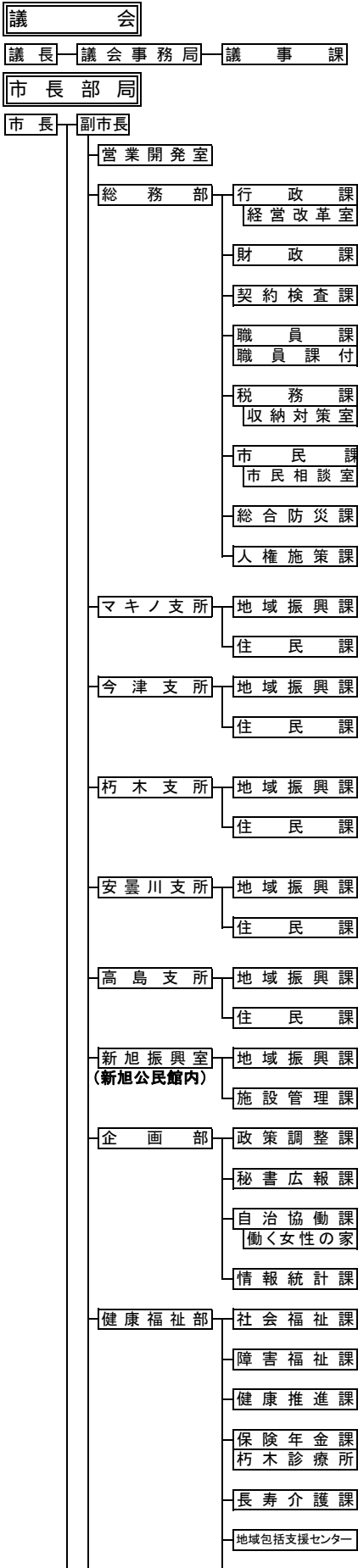


(表彰状)

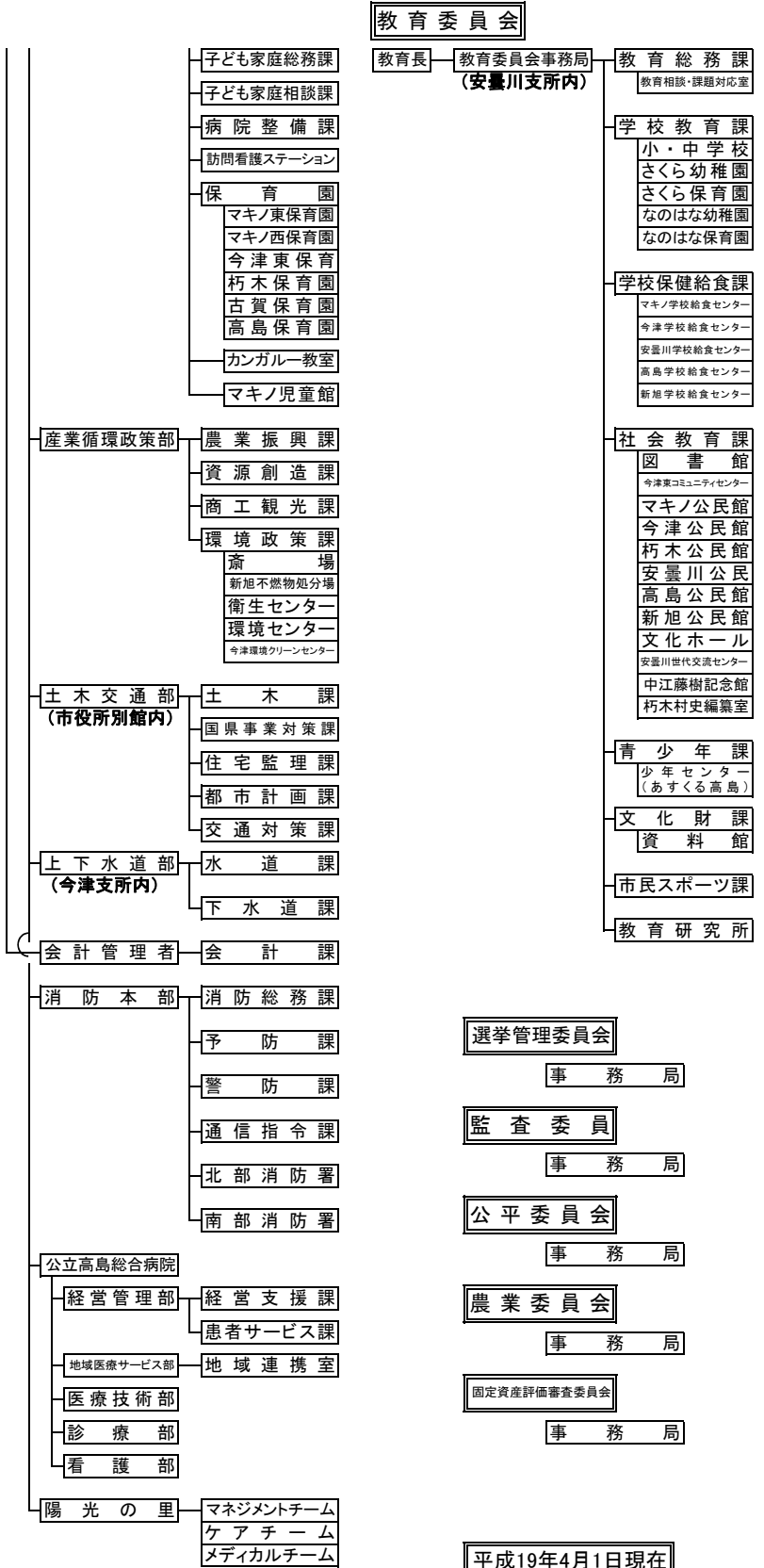


(成安造形大学との調印)

高島市行政機構図



高島市役所本庁舎(旧新旭町役場)別館、今津支所、安曇川支所以外の部課と行政委員会
 市役所別館(旧高島郡民会館) 土木交通部、介護保険課、地域包括支援センター
 市役所今津支所 上下水道部
 市役所安曇川支所 教育委員会



選挙管理委員会
事務局

監査委員
事務局

公平委員会
事務局

農業委員会
事務局

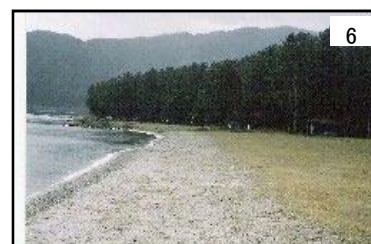
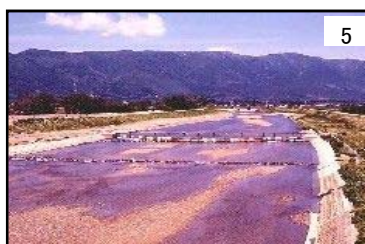
固定資産評価審査委員会
事務局

平成19年4月1日現在

高島の「百選」

	百 選 名	名 称	場 所	選定年月	選 定 機 関
1	日本の白砂青松百選	湖西の松林	今津町～マキノ町	昭和62年 1月	(社)日本の松の緑を守る会
2	日本のさくら名所百選	海津大崎の桜	マキノ町	平成 2年 3月	(財)日本のさくらの会
3	日本の滝百選	ハツ淵の滝	(旧高島町)鹿ヶ瀬	平成 2年 4月	日本の滝百選選定委員会・緑の地球防衛基金
4	新・日本街路樹百選	メタセコイヤ並木	マキノ町	平成 6年11月	読売新聞社
5	水の郷百選	マキノ町全域	マキノ町	平成 7年 3月	国土交通省
6	日本の渚百選	萩の浜水泳場	(旧高島町) 永田～勝野	平成 8年	日本の渚百選中央委員会・国土交通省
7	日本の棚田百選	畑の棚田	(旧高島町)畑	平成11年 7月	日本の棚田百選選定委員会・農林水産省
8	日本花の百名山	赤坂山	マキノ町	平成14年 3月	(株)山と渓谷社による決定版「花の百名山」登山ガイド
9	未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選	琵琶湖の伝統的漁法 ～ 築(やな)～	安曇川町北船木	平成18年	水産庁
10	快水浴場百選	マキノサニービーチ	マキノ町	平成18年 5月	環境省
11	日本の紅葉百選	生杉のブナ原生林	朽木生杉	不詳	不詳

日本花の百名山の「赤坂山」については、(株)山と渓谷社による「決定版花の百名山登山ガイド」によるものであり、厳密には田中澄江 著の「花の百名山」とはいいがたいものがある。(山と渓谷社に確認済)



【資料 商工観光課】

いだ

“美しく豊かな自然に抱かれた高島市”

はいぜつ こうきゅう ねが

「核兵器を廃絶し 恒久平和を希う都市宣言」

緑の山々 母なる湖^{うみ}
わたしたちのまち たかしまには
水と緑あふれる 豊かな自然があります
守り育てた美しい大地からは
たくさんの恩恵^{めぐみ}をうけています

自然と人 人と人がつながり
よるこび はげまし 助け合い
日々の暮らしに感謝できること
それらは 平和を愛するすべての人々の
共通の願いです

しかし この地球には
今も核兵器が存在しています
核の存在により あらゆる命のいとなみが^{きょうい}
一瞬にして奪い去られる脅威を有しています

今 わたしたちにできること
ヒロシマ ナガサキの悲劇^{ひげき}を繰り返さないために
核兵器の恐ろしさ 世界平和の尊さを^{とうと}
みんなで一緒に考えます

今 わたしたちにできること
平和な今だからこそ 改めて「命」の大切さを
子どもたちと大人が 一緒に話し合い
できることから始めます

そして 今 わたしたちにできること
地球という「家」に住む 多くの家族の命のために
一人の小さな思いや行動を つなぎあい^{つむ} 紡ぎあい
より大きな輪へと広げます

核兵器のない世の中に向けて
世界でただ一つの被爆国^{ひばくこく}として
核兵器を 「もたない つくらない もちこませない」
この非核三原則を守り 全世界の人たちに^{こうきゅう}
恒久平和の実現を呼びかけます

この高島市には
世界中の平和をねがい
地雷廃絶など 様々な活動にとりくむ
多くの子どもたちがいます

子どもたちは
郷土の宝であり 誇りです
この子どもたちをはじめ
世界の子どものたちの未来のために

こうきゅう ねが
恒久平和への想いと 希いを確認し
広く訴えるため
高島市はここに
「核兵器を廃絶し 恒久平和を希う都市」^{はいぜつ こうきゅう ねが}
であることを 宣言します

平成18年3月30日 決議
高島市議会

平成18年3月30日 公告
高島市

高島市内に「重要文化的景観」が選定！

平成20年3月28日、文部科学大臣により「高島市海津・西浜・知内の水辺景観」が全国で5番目となる重要文化的景観に選定されました。

「高島市海津・西浜・知内の水辺景観」は、琵琶湖をはじめとする河川・内湖、扇端部の湧水を水源とする小河川、さらに増水時に冠水する水田等によって形成され、それぞれ地域固有の豊かな生態系をもっています。

中でも魚類は多様で、それにあわせて発達した、河川を簀(す)で遮断し遡上する魚を漁獲部分に誘導するヤナ漁や、カラスの羽をつけたサオで湖岸のアユを驚かせながら網に追い込むオイサデ漁などの伝統漁法があります。漁法以外でも、洗いものをする橋板やイケと呼ばれる水場など、多様な水文化が残っています。

また、江戸時代には宿場・港町として、多くの人や荷物が行き交い、内湖を活用した荷物の積み出しなどが行われ、地域の生産品である淡水魚など、多くの物資を京都・大阪に運ぶ上で重要な場所となっていました。



海津大崎の桜



海津・西浜の石積み



知内川のヤナ



海津の湧水(イケ)